☆試験期間中も午後１時まで図書館は開いています。ぜひ自習にもご利用下さい。☆

Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.6(2024 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

『南海トラフＭ９地震は起きない』　角田史雄、藤和彦

阪神間に住む人で、この題名に興味を持たない人がいるでしょうか？「南海トラフ巨大地震は起きない」と地震学の専門家に言ってもらえば確かに心強いのですが、この本がそう主張する根拠は、「そもそも地震はプレートがぶつかって起こるのではなく、地球内部の高熱が移動してできるから。」だそうです。これを「熱移送説」と言い、本書で詳しく解説されています。それを信じるかどうか、はあなた自身が判断して下さい。

『原爆裁判―アメリカの大罪を裁いた三淵嘉子』　山我浩

1940 年に日本で最初の女性弁護士となった三淵嘉子。彼女は、今年上半期の NHK 朝ドラ『虎に翼』のヒロインのモデルとなりました。でも彼女が戦勝国アメリカに対して「広島、長崎への原爆投下は国際法違反である」という判決を下していた裁判官であったことは、みなさんご存知でしたか？日本は世界で唯一、原爆が落とされた「被爆国」なのですから、日本人として、この原爆裁判についての本をぜひ一度読んでみませんか。

『カグラバチ』　外薗健

今年の「次にくるマンガ大賞」のコミックス部門で 1 位を受賞し、早くも『週刊少年ジャンプ』の看板作品として期待が寄せられている漫画です。ちなみに作者の外薗健（ほかぞの たける）は、この作品が初の連載作品という、超若手。（年齢は非公表ですが、2000 年以降の生まれ。）

主人公の 18 歳のチヒロには、日本で最も有名な刀作りの名人の父がいた。父のような刀匠を目指していたチヒロをはばんだのは妖術師たちで・・同じく「次にくるマンガ大賞」WEB 漫画部門　1 位を受けた**『ふつうの軽音部』**も、ぜひどうぞ。

『恋愛しない私でも『源氏物語』は楽しめますか』　西原志保

電通が 2020 年に行った調査では、全体の 0.81%の人が自分をアセクシュアル・アロマンティック（他人に恋愛感情を抱かない）と自認していました。同性にも異性にも恋愛心を抱かない人は、一定数いるんですね。さて、一般に「恋の話」だと思われている『源氏物語』ですが、光源氏の妻でありながら、恋愛に消極的な女三の宮みたいな登場人物もいます。この本は、そんな面に焦点を当てた異色の「源氏物語」論です。

『アルプス席の母』　早見和真

世の中に「高校野球」を描いた小説や漫画は数多くありますが、それらの多くは「高校球児」が主人公です。これに対して、この小説の主人公は「高校球児の母」であり、球児たちを支える親の視点から高校野球をめぐる人間模様を描いていきます。

シングルマザーの菜々子は、神奈川県で看護師をしながら野球が上手な一人息子を育てていた。関東一円の強豪校からスカウトが来ていたが、息子が選んだ高校は遠く離れた大阪の新興校で・・・

『本心』　平野啓一郎

来月（11 月）池松壮亮主演の映画が公開される、原作の小説です。

舞台は、「自由死」が合法化された 2040 年の日本。要するに、「死にたい」と望む人には死ぬ権利が与えられている近未来です。主人公の朔也は母子家庭で育ちましたが、その母は「自由死」で亡くなっていました。どうして母は死にたいと思ったのか。そのことを確かめるべく、朔也は AI で死んだ母をフィギュアとして復元するのですが・・

東高校図書館公式
キャラクター
「東子ちゃん」

『穢れた聖地巡礼について』　背筋

そのペンネーム通り、「背筋の凍るような」ホラー小説の醍醐味が今回も味わえます。

たくさんの写真がバラまかれている山小屋の「変態小屋」、死者と会える病院として有名な「天国病院」などの心霊スポットを軸に、物語は息詰まる展開をしていきます。

『水素エネルギーが一番わかる』白石拓

水素エネルギーと言うと、みなさんは何を思い浮かべますか。「燃料電池」をイメージされた方も多いでしょう。水素を使って発電するシステムですね。でも、水素はガソリンのように、燃やすことでエネルギーを取り出すこともできます。また、太陽が燃えるのと同じ原理で、「核融合」によってもエネルギーを生み出せるのです。本書は、こうした水素エネルギーの可能性と現在の技術について、分りやすく教えてくれます。

『漢方がみちびく心と体のレジリエンス(回復力)』　萩原圭祐

漢方薬というと、何となく「民間療法」的なイメージを持っている人もいるかも知れません。しかし、この本の筆者は大阪大学の医学の研究者ですが、西洋医学と違って人体の自己回復力を重んじる漢方に可能性を感じ、この本でも漢方の原理や魅力を詳しく解説しています。ストレスなど「心」の不調にも効く薬があったりするのも、漢方の魅力です。

今号のひとこと

Le vent se lève, il faut tenter de vivre!
風が吹いている、そうだ、生きようとしなければならない。※　ポール・ヴァレリー (1871-1945)

堀辰雄が「風立ちぬ、いざ生きめやも」と訳して小説『風立ちぬ』の題名にもした、フランス語の詩の一節です。この「風立ちぬ」の訳は、後に宮崎駿のアニメ映画の題名にもなりましたが、賛否両論のある訳です。堀の訳を現代語に直せば「風が吹いた。生きようか、いや、生きまい。」となり、通常の解釈では原作とは逆に近い内容になってしまうからです。ちなみに原作のこの場面では、海辺の墓地で夢想にふけっていた詩人は、ふと我に帰ると強い海の風をからだで感じ、さあ現実にもどって生きていかねば、と自分に言い聞かせています。

※『海辺の墓地』より。